

2022（令和4）年1月30日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第11期・第9回）の議事録は次のとおり。

1 開会

（事務局）

- Zoom会議における発言時のルール、会議の録音、本日の欠席者及び配付資料等について説明した。

2 議題

(1) 第8回会議（オープン会議）の振返りと山下委員の辞任について

（サリ アビシエク 委員長）

- 第8回会議（オープン会議）でいただいた御意見をしっかりと受け止めて、各自の提言案に反映していただいたのではないかと思います。
- 今後、再び懇話会委員を交えて話をする機会もあるので、提言案をいかに具体化し、肉付けしていくかを考えて準備を進めてほしい。
- 本日は、各部会で提言案の修正内容を共有していただき、その他に修正した方がよい点などについて、意見交換を行っていただきたい。
- 次回の会議には懇話会委員をお招きいただけるので、どの懇話会委員から御意見をいただきたいかという点についても、協議してほしい。
- また、山下ジュリア真由美委員から、委員辞任の申し出があった。詳しくは事務局から説明をお願いしたい。

（事務局）

- 山下委員から、「体調の悪化により、委員を続けることが難しい」という御連絡をいただいたため、辞任の手続きを進める必要がある。
- 本会議の委員は15人以内と規定されている。今後の対応としては、14人で継続するか、新しい委員を選任するかという2つの選択肢がある。
- 委員を選任する場合、手続きに3か月ほどかかる。新しい委員には、5月頃から秋までの短い期間のみ、委員を務めていただくことになる。
- 以前に委員が辞任したケースは5回あり、第2期と第3期は、委員の補充を行った。第7期、第9期、第10期は、補充を行っていない。
- 残りの任期と過去の対応等を考慮し、事務局としては14人の体制で継続してはどうかと考えている。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 非常に残念だが、御本人の意向を受け止めなければいけない。14人で継続するか、新しい委員を選任するか、御意見をいただきたい。

(各委員)

- ・ 新しい委員を選任しても、その方が山下委員と同じ意見かどうか、提言案を引き継いでもらえるかは分からない。残りの期間も考えると、新しい委員を入れるより、14人で継続した方がよいと思う。
- ・ 各委員に①14人で継続する、②新しい委員を選任するのどちらがよいか挙手していただき、多数決で決めればよいのではないか。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 14人で継続することに賛成の方は、挙手をお願いしたい。(全員挙手)
- ・ 14人で継続することで決定とする。

(2) 部会別協議 (提言案の再検討)

【情報部会】

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 前回のオープン会議でいただいた御意見を踏まえて、提言案を修正した箇所について共有していただき、皆様の御意見をいただきたい。

(ケゼングア エドワード ムインビ 委員)

- ・ 特に修正していない。パックマン委員はどうか。

(パックマン ジェイサン マシュー 委員)

- ・ どのような動画を作成するか、もう少し補足したいと考えているが、現時点では修正していない。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 了解した。次は、私の町内会に関する提言案について話したい。
- ・ オープン会議の御意見を踏まえて、公民館やまちづくりセンターなど、地域住民に密着した場所に提言を伝えてほしいという内容を追記した。
- ・ また、海外留学経験がある方や外国人が多い地域の居住者に体験談を共有していただき、外国人との接し方について相談に乗ってもらう

など、日本人住民に対する啓蒙教育に関する内容を追記した。

- ・ 町内会制度の魅力や加入方法をPRすることで、役員の人手不足や高齢化の問題などの解決につなげたいという内容を盛り込んだ。
- ・ 続いて、リディア委員とミリアム委員の提言案について話したい。

(リディア ワンタ 委員)

- ・ オープン会議では、保護者向けのオリエンテーションを実施するなら、子育て支援の部署に話をする必要があるという御意見をいただいた。

(ティンキーコ ミリアム 委員)

- ・ オープン会議の時点では、窓口を設置してほしいという提言だと受け止められていたようなので、タイトルに説明会という文言を追加した。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 了解した。続いてシリワン委員の提言案に修正点はあるか。

(仲田 シリワン 委員)

- ・ 以前懇話会委員から、ボランティアの活動継続には交通費や活動費のサポートが必要という御意見をいただいたため、その点を追記した。
- ・ また、学校や区役所にはボランティアを支援する窓口がないため、担当部署を作ってほしいということを追記した。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 了解した。改めて、各委員の提言案について御意見を伺いたい。ケゼンガア委員とパックマン委員の提言は、動画を作成して伝えるということだが、これは県に動画を作ってほしいということか。

(ケゼンガア エドワード ムインビ 委員)

- ・ そのとおり。オープン会議では、県のホームページだけでは伝わらないため、情報伝達の方法は考えた方がよいという御意見があった。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 外国人観光客へのPRで、コンテンツを作成しても届ける術がなく、つまづくことが多いと聞いた。作成に3割、伝達に6割、フィードバックに1割の労力を割くのが理想的という、3：6：1（サーロイン）の法則がある。ホームページ以外の方法も検討した方がよいかと思う。

(ケゼンガア エドワード ムインビ 委員)

- ・ ポスター、掲示板、チラシなど、別の方法があってもよいと思う。ただ、県レベルで何かをやろうとするとハードルが高いかもしれない。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ もう少し具体的な伝達方法を追記すると、県も検討しやすいと思う。
- ・ 町内会の提言案について補足する。一方的な希望を出しても、それを受け止める地域の方々に反発されたら意味がない。お互いが Win-Win の関係になるよう、町内会の必要性や魅力を伝える書き方を心がけた。
- ・ 私が住んでいる地域は外国人が多く、各町内会は対応に慣れている。ただ県全体では状況が異なり、話は分かっていたが協力はできないという話になりかねないので、説明会や相談会の実施などを盛り込んだ。
- ・ リディア委員とミリアム委員の提言案について、オリエンテーションの具体的な実施イメージがあれば伺いたい。

(ティンキーコ ミリアム 委員)

- ・ 川崎市で実施中のオリエンテーションを県内全域で実施してほしい。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 川崎市における実施場所と、開催頻度を伺いたい。

(ティンキーコ ミリアム 委員)

- ・ 教育文化会館や川崎市国際交流センターで年4回程度実施している。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 川崎市の取組が県全体に広まるように、市町村との会議の場で伝えてほしいなど、具体的に書くと分かりやすくなると思う。現在の提言案は小学校でオリエンテーションを実施してほしいとも読めるが、県立小学校はないので、県は対応できないという印象を受けると思う。

(仲田 シリワン 委員)

- ・ 川崎市のオリエンテーションは2種類あり、1つは国際交流センター、もう1つは教育委員会が実施する。入学に向けた準備、学校に持参するもの、PTAなどについて説明する。
- ・ 横浜市では保護者向けのDVDを作成しており、後からでも説明内容を確認できる。

(リディア ワンタ 委員)

- 横浜市で子育て相談をやっている。南吉田小学校は外国人の生徒が多く、しっかりと説明会を行う。しかし、別の場所では外国人保護者に対する説明会が日本語で行われ、保護者が理解できないことも多い。
- 日本に来たばかりの保護者に対して、対面で説明会を開催してほしい。動画はどこでも何回でも見られる点でよいが、保護者の国の文化や宗教もあるため、説明会で保護者の希望を聞いてもらえるとよい。

(楊 芳 部会長代理)

- 横浜市中区に「ひまわり」という日本語支援施設があったかと思う。

(リディア ワンタ 委員)

- 横浜市は広いので、例えば青葉区の方がわざわざ行くのは難しい。

(仲田 シリワン 委員)

- 川崎市国際交流センターの説明会は、通訳者がいて内容はよい。ただ、PRが足りていないことが問題。説明会は1月と2月に実施され、10組から15組が参加しているが、入学後に説明会の存在を知る方が多い。

(楊 芳 部会長代理)

- 川崎市の取組を県全体に広めるため、県から各自治体に伝えてほしいといったことを、提言案に盛り込むとよいと思う。川崎市の実施方法やPR方法の改善点を具体的に提案すると、県も対応しやすいと思う。
- 次はシリワン委員の提言案について、御意見等があればお願いしたい。

(仲田 シリワン 委員)

- 最近ではコロナの流行で区役所や国際交流センターを利用できない。ボランティア活動も中止が多く、高齢を理由に辞めてしまう方もいる。

(楊 芳 部会長代理)

- そういった意味では、例えばタブレットを活用したオンラインの通訳といったことを提言案に盛り込むという手もあるかと思う。

(仲田 シリワン 委員)

- 私の子どもの小学校では、タブレットが配付されている。ただ、オンラインでは話が難しい場合もあり、ボランティアが必要だと思う。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- ・ 細かいところまで考えていると思うが、県に求めていることは何か。

なかだ しりわん いいん
(仲田 シリワン 委員)

- ・ 予算である。学校、区役所、市役所など、予算がないと何もできない。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- ・ その予算というのは、市ではなく県の予算のことを指しているのか。

なかだ しりわん いいん
(仲田 シリワン 委員)

- ・ そうである。私の住んでいる区には担当がおらず、予算もないためできないと言われた。学校は、個人情報問題でできないと言われた。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- ・ 県が取り組むとできるようになるのか。

なかだ しりわん いいん
(仲田 シリワン 委員)

- ・ 県全体のプロジェクトとして、全市町村でやりましょうということになれば、外国人ボランティアの取組が広がると思う。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- ・ 提言内容は、ボランティアを支援するための予算立てと、担当部署の設置だと思うが、これは県に対する要望か、市に対する要望か。

なかだ しりわん いいん
(仲田 シリワン 委員)

- ・ 県から伝えて各教育委員会、市役所、区役所が対応する想定である。上から言わなければ下は何も対応しない。

- ・ 現在は全体的なビジョンがなく、点で対応している。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- ・ 県と市に上下関係はないと思う。

- ・ 県で予算を取って県に窓口を作るという内容かと思っていたが、窓口は市にお願いするのか。それとも県に担当部署を作るということか。

なかだ しりわん いいん
(仲田 シリワン 委員)

- ・ 県に担当部署を作ってそこから伝えるのがよいか、市役所が担当するのがよいか、システムについてはよく分からない。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- それによって提言案の書き方も変わってくる。どういうルート、どういうやり方があるかなど、もう少し調べて修正した方がよいと思う。
- 本日欠席だが、佐々木委員の提言案について、何か御意見はあるか。

じむきょく
(事務局)

- 提言案の②として「委員に提案したいこと」という項目があるが、最終的に県への提言としてまとめるものであるため、各委員にお願いしたいことを書くのはどうなのかという点が気になっている。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- 了解した。削除するか別の書き方に修正するか、佐々木委員に御対応いただくよう伝えておく。その他に質問はあるか。

(ケゼンガ エドワード ムインビ 委員)

- 回目の会議で懇話会委員から御意見をいただくという話があったが、数名の方に御参加いただく形か。懇話会委員全員が参加するのか。

じむきょく
(事務局)

- 事務局としては、今年度声かけをしていない方に御参加いただきたい。柏崎委員、坪谷委員、上谷委員、石川委員、丸山委員の5名が該当する。それ以外に、お話を伺いたい方がいれば、お知らせいただきたい。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- 何名まで呼ぶことができるのか。

じむきょく
(事務局)

- 何名御参加いただけるか分からないが、最大9名と考えている。

よう ほう ぶ かいちょうだいいり
(楊 芳 部会長代理)

- すぐには決まらないため、部会で取りまとめて事務局にお伝えする。

じむきょく
(事務局)

- 提言のまとめ方を相談したい。第10期はどのようにまとめたのか。現在は各委員が個別に提言案を記載しているが、第10期の報告書は、もう少し項目別にコンパクトにまとまっている。

よう ほう ぶ かいちょうだいり
(楊 芳 部会長代理)

- 前期は、最後の方で各委員の提言案を1つにまとめた。事務局から専用のフォーマットをいただき、そのフォーマットに委員それぞれが記入し、最終的に事務局にまとめていただいた。

じむきょく
(事務局)

- 今回もそういった形で進めさせていただければと思う。

よう ほう ぶ かいちょうだいり
(楊 芳 部会長代理)

- 情報部会では、オンラインのICTツールとオフラインのマンパワーという2つの切り口で提言を考えており、今は各自で提言案を記載しているが、最終的に事務局でまとめやすい形にしたいと思っている。

じんけん きょういくぶかい
【人権・教育部会】

は さんう ぶ かいちょう
(河 相宇 部会長)

- 人権・教育部会では、3点について話したい。1点目は次回の会議でどの懇話会委員から御意見を伺うか、2点目は提言書をどのようにまとめていくか、3点目は辞任する山下委員が担当していた日本語教育の提言について、他の委員でカバーできるか話したい。

(サリ アビシエク 委員)

- 3点目は、同じく日本語教育の提言を行う唐委員にお願いしたい。

とう とくりゅう いいん
(唐 徳龍 委員)

- 了解した。

は さんう ぶ かいちょう
(河 相宇 部会長)

- 事務局に確認したい。提言書は最終的にいつまでにまとめる必要があるか。今後の全体的な流れや対応期限などを各委員と共有したい。

じむきょく
(事務局)

- 資料1を御覧いただきたい。今回の会議は⑨で、次回(⑩)の会議では懇話会委員の御意見を伺う。今は各提言を個別に記載しているが、4月から5月の会議(⑪)までに、最終的な報告書の構成を意識した形に変えていく。6月から7月の懇話会との合同会議(⑫)でその

内容を発表し、再び懇話会委員の御意見を伺う。その御意見を受けて⑬で報告書をほぼ確定、⑭で最終的に完成させ、10月から11月頃に知事に提出という流れを予定している。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ ある程度今の提言案を修正した上で、事前に懇話会委員に見ていただく方がよいと思う。いつまでに事務局に資料を送付すればよいか。

(事務局)

- ・ 懇話会委員には1週間前ぐらいに資料を共有したいので、できれば2週間ぐらい前に修正した資料を送付してほしい。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 2月末までに提言案を修正し、送付することとしたい。

(事務局)

- ・ 懇話会委員の紹介リストを御覧いただきたい。事務局としては、今年度声かけしていない懇話会委員に御意見を伺いたいと考えている。
- ・ 2番の柏崎委員、3番の坪谷委員、5番の上谷委員、7番の石川委員、12番の丸山委員の5名には、まだ御意見を伺っていないので、声かけしたい。その他に希望する方がいれば、事務局から依頼する。

(河 相宇 部会長)

- ・ 何度か御意見をいただいている方より、違う方の御意見も参考にして提言をまとめた方が効率的ではないか。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 賛成である。人によって観点や経験が異なり、同じ提言でも追加の御意見や新しい情報が得られる可能性があるため、是非そうしたい。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 柏崎委員は、経歴を見ると地方参政権などの問題にも答えていただける可能性を感じるため、少し期待している。
- ・ インターナショナル・コースの導入に関する提言は、日本語教育の分野において実践的に活動している坪谷委員と高橋委員の御意見が必要だと思う。

(サリ アビシエク 委員)

- 坪谷委員には異なる観点から御意見を伺いたい。高橋委員は経験豊富なので、オープン会議の結果を共有し、御意見をいただきたい。

(事務局)

- 坪谷委員には声かけする予定なので、追加で高橋委員に声かけする。

(河 相宇 部会長)

- 最終的な提言書の作成は、各委員の方で進めていくイメージか。懇話会委員に添削していただくといったことは想定していないか。

(事務局)

- そこまでは想定していない。懇話会委員から御意見は伺うが、提言書の作成自体は、外国籍県民かながわ会議の方で行っていただく。

(河 相宇 部会長)

- 神奈川県で会議で提言書を出すのが初めてであるため、イメージが沸かない部分がある。過去に提出された提言書を送ってもらえないか。

(事務局)

- 了解した。前期の進め方について、アビ委員からお話いただけるか。

(サリ アビシエク 委員)

- 最終回の2回前まで、各提言を精査していた。その後、事務局が提言案をまとめ、各委員から意見があれば修正する形だった。最終回の1回前に提言書案が共有され、最終的な合意を取って発表会に臨んだ。河委員が委員を務めた川崎市とイメージは似ていると思う。

(河 相宇 部会長)

- 川崎市の場合、最終的には、専門の方に文章をまとめてもらった。

(サリ アビシエク 委員)

- 県の会議に専門職の方はいないので、事務局がまとめている。

(金 愛蓮 委員)

- 先日のオープン会議を経て、自分が委員に就任したときの考えが、皆さんと話をしながら変わってくることを実感した。

- ・ オープン会議では、河委員が作成した提言案を公表させてもらった。地方参政権は重要だが、オープン会議であまり御意見が出なかった。
- ・ 他の方が作成した提言案に、自分の考えをどのように入れてまとめるか悩んでいる。提言書には、各委員の名前が載るのか。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 個人名ではなく、会議の提言としてまとめる形になると思う。

(リー ロイ ジャシユン 委員)

- ・ 前期の提言書を見ると、各項目に提言者は書かれていない。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 委員名簿は提出するが、個別の提言者を記載する形にはならない。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 了解した。それなら、もう少し積極的に提言を修正できると思う。

(唐 徳龍 委員)

- ・ オープン会議の御意見を受けた提言の肉付け方法について議論したい。
- ・ 辞任する山下委員の提言案は、そのまま掲載する形になるのか。

(事務局)

- ・ 事務局としては、部会として引き継いでいただきたい。協議の結果、内容を修正するのはよいと思うが、提言自体は残していただきたい。

(河 相宇 部会長)

- ・ 了解した。鈴木委員の「高齢者の外国籍県民が安心して生活できるサポート体制」の提言に関して、何か御意見はあるか。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 高齢者の支援に加えて、当事者をサポートするEPA介護福祉士候補者、技能実習生など、介護職員として日本に来る外国人が働きやすい環境をサポートしていくことを、提言の中に盛り込んでほしい。

(事務局)

- ・ 本日は鈴木委員が不在であるため、各委員からいただく御意見は議事録という形で鈴木委員に共有する。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- 鈴木委員の提案は、新しい情報を作成するというより、今あるものを県から各自治体に周知するという理解でよいか。

(金 愛蓮 委員)

- 情報を多言語化するという内容もある。日本の高齢化は急速で、外国人も数多く含まれている。介護保険料を払っている外国人がサービス内容を理解していないため、積極的な情報提供が必要である。
- 地域包括支援センターは、名前からして分かりにくい。高齢を理由に諦めてしまう外国人が増えないよう、情報提供とサポートが必要。仕事で日本に来た外国人が働きやすい環境についても提言したい。

(サリ アビシエク 委員)

- 情報の周知だけではなく、体制づくりが必要だという提言だと思う。1つは今ある情報を多言語化するということで、もう1つは外国人の高齢者をサポートする体制をどう整えるかということだと思う。

(河 相宇 部会長)

- 介護保険制度の周知に加えて、通訳を配置するなど、外国人でもサービスを受けられる体制を作っていくという内容だと思う。

(サリ アビシエク 委員)

- 今は技能実習生がたくさん日本に来ており、高齢者のサポートで言葉の問題を解決するという意味では、彼らを活用できるのではないか。
- 例えばフィリピン出身の高齢者を、フィリピンから来た技能実習生がその国の言葉でサポートする可能性もあると思う。

(金 愛蓮 委員)

- 技能実習生の日本語レベルはN3程度で、人を助けるような日本語能力は持っていない。彼らに対する日本語教育を強化すること、彼らがきちんと仕事できるようなシステムを提言すべきだと思う。

(サリ アビシエク 委員)

- 技能実習生向けの日本語教育ではなく、外国人高齢者のサポートの話である。例えば日本人のマッサージ師は、外国人高齢者の言語を話せないが、同じ国出身の技能実習生が行けば、同じ言語で会話できる。

は さんう ぶ かいちょう
(河 相宇 部会長)

- ・ 高齢者をサポートする人をフォローするような体制づくりについても提言に入れた方がよいという御意見があった。
- ・ 外国人高齢者が実際に抱えている問題点を踏まえた上で、改善策を示すなど、もう少し具体的にした方が分かりやすくなると思う。

じむきょく
(事務局)

- ・ この提言は、県から市町村に対して何かをしてほしいのか、それとも県に何かをしてほしいのか、その辺りが具体的に書かれていない。
- ・ 多言語で情報提供するよう市町村に働きかけてほしいとか、県から直接情報提供してほしいとか、具体的な提言としていただきたい。

は さんう ぶ かいちょう
(河 相宇 部会長)

- ・ 了解した。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 河委員の提言案について、日本人を含む環境の改善を提言するのか、外国人の子どもに特化した課題の改善を提言するのか、整理したい。

は さんう ぶ かいちょう
(河 相宇 部会長)

- ・ 外国人も日本人も、全ての子どもたちを含めた内容で提言したい。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 本会議の趣旨として、日本人を含む問題を提言するのはどうなのか。

じむきょく
(事務局)

- ・ 外国籍県民の視点から御意見をいただく会議であるため、日本の子どもを含めて制度改善を図ってほしいという提言でも問題ない。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 外国人に特化した部分では様々な問題がある。日本人の親と外国人の親が離婚して、日本人の親が子どもを引き取った場合、外国人の親には殆ど権利がない。母国に帰らざるをえなかったり、日本に来て子どもにも会えなかったり、そういうことも改善してほしい。
- ・ 外国人の貧困も改善が必要である。また、親が日本語を話せず日本社会を知らないために、子どもも日本社会に入れられないこともある。

は さんう ぶかいちょう
(河 相宇 部会長)

- この問題は色々幅広くところにつながっていくと思う。川崎市には子どもの権利に関する条例がある。日本全体では約40市町村で条例が制定されているが、神奈川県かながわけんの条例としては制定されていない。
- 貧困や不登校など子どもを取り巻く環境は、日本人、外国人に共通する問題であり、まずは1つのきっかけとして条例を作り、社会全体が関心を持って改善できるような基盤づくりをしていきたい。
- 条例があれば、もう少し細かいところでもサポートができるような体制が構築できるのではないかと考えて、提言案を作成した。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- 趣旨を理解した。

は さんう ぶかいちょう
(河 相宇 部会長)

- 外国人の両親がコロナの影響で国に戻ってしまい、子ども1人で生活していた事例がある。1人だと食べ物も満足に食べられない。
- 虐待を受けても助けを求める場所が分からないという状況がある。条例を定めることで、周りの大人に声をかければ、苦しい状況を抜け出せると分かってもらえるような体制づくりが必要だと思う。

リー ロイ ジャシュン いいん
(リー ロイ ジャシュン 委員)

- 条例制定は第一歩として必要だが、学校現場で働く身としては、いかにして条例だけにとどまらず、実際に現場の子どもたちを守る大事な役割が果たせるようなものとなるかが大事だと思う。

は さんう ぶかいちょう
(河 相宇 部会長)

- 国連の条約を批准していても、実際に守られている部分と守られていない部分がある。守らない人に対する罰則とか、子どもを抱える現場に権限が与えられないと、形だけの無意味なものになってしまう。

リー ロイ ジャシュン いいん
(リー ロイ ジャシュン 委員)

- 学校現場でよくあるのが、権利権利と言いながら、自ら権利を侵害しているケース。自分がしていることが駄目という認識がない。
- 具体的に駄目なことを例示するだけでも、先進的な条例になる。ただし、条例の具体的な中身の検討は、次のステップになると思う。

(河 相宇 部会長)

- ・ そういった検討も必要だと思ふ。まずは条例を制定して、実際に運用していく中で何らかの強制力などが必要という話になれば、改めて協議して付け加えていくことになると思ふ。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 提言の中に、将来的なステップを書き足すと、具体性が増すと思ふ。

(金 愛蓮 委員)

- ・ オープン会議で、子どもの権利条例と地方参政権に対しては、あまり御意見がいただけず、実現の難しさが伝わってきた。
- ・ 新たな条例の制定は何年もかかるので、この会議で提言できるのは、条例を制定するための会議体の設置までだと思ふ。
- ・ 地方参政権がただのスローガンで終わらないとよい、という御意見があつて、目が覚めた。なぜ子どもを守らなければならないのか、なぜ地方参政権がないと駄目なのか、きちんと訴えていく必要がある。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 私の提言案を提案書に組み込む方法について議論したい。部会の他の提言とは異色であり、1つの提言書にまとめるのは違和感がある。
- ・ 例えば次期の外国籍県民かながわ会議で、別の部会の提言とすべきか、報告書全体の一貫性をどこまで求めるべきか伺いたい。

(金 愛蓮 委員)

- ・ タイトルは変えてもよいと思ふが、この提言案には、オープン会議でよい御意見をたくさんいただいた。
- ・ こういった取組は地方自治体の中ですごく整理されているというか、進んでいるという印象があり、提供される情報も多かった。
- ・ 普段はあまり見えない部分だが、先進的で今後は必要な取組だと思ふ。オープン会議で伺った情報を取り入れれば、よりよい提言になると思ふので、ギブアップしないでほしい。

(事務局)

- ・ 外国人が起業するうえで大切な情報をもっと伝えていくべきということであれば、情報部会の提言案として位置付けるのもありだと思ふ。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 元々「人権・就労・教育部会」という名前の予定だったので、この部会の提言になっている。広すぎるので「就労」は抜くことになった。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 日本で起業するプロセスとか、法律事務所の紹介といった部分は、情報提供に当たる。一方、中小企業向けの研修は別枠であり、日本人経営者に対する教育に関するものである
- ・ 提言案が2つあるとも言えるし、自分としては今回の提案書に入れたいが、一貫性がなく付け加えた感じになるなら、次期で就労部会などがあれば、そちらでまとめて提言してもよいと思っている。

(河 相宇 部会長)

- ・ 大枠として当てはまらないわけではないし、今まで部会の中の1つの提言としてやってきたので、提言書に含めることとしたい。提言したいという意味があるなら、各委員でサポートしながら進めたい。
- ・ オープン会議では、外国人の方からこういう提言をいただけるのは貴重という御意見も出た。日本人起業家と外国人起業家の両方が増えれば、日本社会のためになると思う。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 了解した。オープン会議の意見を改めて確認して、取り入れたい。

(事務局)

- ・ 冒頭で話があった過去の提言については、県のホームページに第1期から第10期までの提言が掲載されている。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 私の提言案について、何か御意見はあるか。

(金 愛蓮 委員)

- ・ オープン会議でいただいた御意見について、どう思っているか。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ ネガティブな御意見は特になかったが、アドバイスをいただいた部分は反映したいと思っている。

(金 愛蓮 委員)

- ・ インターナショナル・スクールは実現性が低いのではないかと
ことが気になった。また、母語・継承語教育についても御意見を
いたしたので、提言に盛り込んでいただきたい。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 当初はインターナショナル・スクールの設置に関する提言だったが、
今はインターナショナル・コースの導入に変えている。
- ・ 継承語に関しては、変更するとこの提言の趣旨が変わってしまう。オ
ープン会議でもコメントしたが、継承語を教える学校とすると、どの
言語を選ぶかが難しく、現実的ではないと思う。
- ・ 全ての公立学校に継承語教育を導入するか、一定の地域に導入す
るとしても、どの言葉を選ぶかが難しいという議論があったと思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ インターナショナル・コースでは、英語で教育を行うのか。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 英語メインで考えている。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 英語だったら全ての国の言葉が賄えるという感覚なのか。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ これからグローバルに活躍する人材のことを考えると、英語が主
世界で通用する共通語として使われているので、そういう意味でイン
ターナショナルと言っている。各国の言葉という意味ではない。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ アビ委員の提案は、日本語が母語ではない子どもたちに対する言葉
支援ではなく、公立学校に英語でハイレベルな授業を行うカリキュ
ラムを作るという提案で、日本人か外国人かは関係ないと思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 継承語と言うと100以上の国があるからと言うが、通じる国が多い
は言え、英語が本当に世界共通語であるかは疑問である。

- ・ 外国にルーツのある子どもたちが生きやすい日本社会にするために、何を提言していくかという観点で考えてほしい。英語のインターナショナル・コースということが念頭にあると思うが、その点についてオープン会議でもたくさん御意見があったので、御検討いただきたい。

(サリ アビシエク 委員)

- ・ 提言案の趣旨とは違うため、どのように取り入れるかは考えたい。

(3) 全体会議 (意見交換)

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 各部会長から、本日の協議内容を共有していただきたい。

(河 相宇 部会長)

- ・ 提言書のまとめ方と今後のスケジュールについて、事務局から情報共有していただき、各委員と今後の進め方について話をした。
- ・ 人権・教育部会の山下委員の退任後の対応について話し合った。山下委員の提言案は、部会の提言として残すことになった。
- ・ 次回の会議にお招きする懇話会委員について話し合った。これまで参加していない方の意見を聞いたうえで提言をまとめていきたいという意見が多く、その方向でお招きしたい懇話会委員を選定した。
- ・ 各提言について意見交換を行った。様々な意見が出たので、それを踏まえて提言案を修正していきたい。

(楊 芳 部会長代理)

- ・ 各自の提言案の内容を改めて確認した。提言内容が分かりにくいものがあるため、早期の実現を望むのであれば、県に何をしてほしいのかを具体的に明記した方がよいという話が出た。
- ・ 外国籍県民をサポートする情報、サービス、体制などは、作るだけではなく知ってもらうことが大事であるため、伝達方法に関する要望も入れた方がよいという意見が出た。
- ・ 次回の会議にお招きする懇話会委員については、今日は結論が出なかったため、後日事務局にお知らせすることになった。

(以上)